

別記様式第2号（その1の1）

基本計画書

基本計画									
事項		記入欄						備考	
計画の区分		研究科の専攻の設置							
フリガナ設置者		ガッコウホウジン サンギョウイカダイガク 学校法人 産業医科大学							
フリガナ大学の名称		サンギョウイカダイガク ダイガクイン 産業医科大学 大学院 (University of Occupational and Environmental Health, Japan, Graduate School)							
大学本部の位置		福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1番1号							
大学の目的		産業医科大学（以下「本学」という。）は、教育基本法（昭和22年法律第25号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づき、医学及び看護学その他の医療保健技術に関する学問の教育及び研究を行い、労働環境と健康に関する分野におけるこれらの学問の振興と人材の育成に寄与することを目的及び使命とする。							
新設学部等の目的		産業医科大学大学院は、本学設立の目的及び使命に基づき、医学及び看護学その他の医療保健技術に関する学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展並びに労働環境と健康に関する分野における医学及び看護学その他の医療保健技術の進展と社会福祉の向上に寄与することを目的とする。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 医学部 産業保健学部 14条特例の実施 昼夜開講の入学定員を分けていない
	医学研究科 [Graduate School of Medical Science] 産業衛生学専攻 [occupational Health (Master course)]	年	人	年次人	人	修士 (産業衛生学)	平成26年4月 第1年次	福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1番1号	
	計		10	—	20				
			10	—	20				
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）		平成25年4月 医学研究科（博士課程） 医学専攻（平成24年12月設置届出済み）（40） 生体適応系専攻（廃止）（△10） 環境・産業生態系専攻（廃止）（△10） 障害機構系専攻（廃止）（△10） 生体情報系専攻（廃止）（△10） ※平成25年4月 学生募集停止（平成24年12月届出済み） 平成26年4月 医学研究科（修士課程） 看護学専攻（平成25年10月設置認可）（5）							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	医学研究科 産業衛生学専攻	講義	演習	実験・実習	計	30単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
	新設分	医学研究科 産業衛生学専攻 (修士課程)	16人 (16)	3人 (3)	6人 (6)	0人 (0)	25人 (25)	0人 (0)	0人 (0)
		医学研究科 看護学専攻 (修士課程)	7人 (7)	3人 (3)	5人 (5)	1人 (1)	16人 (16)	0人 (0)	0人 (0)
		計	23人 (23)	6人 (6)	11人 (11)	1人 (1)	41人 (41)	0人 (0)	0人 (0)
		既設分	医学研究科 医学専攻 (博士課程)	25人 (32)	27人 (27)	17人 (17)	1人 (1)	70人 (77)	0人 (0)
			()	()	()	()	()	()	
	計	25人 (32)	27人 (27)	17人 (17)	1人 (1)	70人 (77)	0人 (0)	0人 (0)	
	合計	48人 (55)	33人 (33)	28人 (28)	2人 (2)	111人 (118)	0人 (0)	0人 (0)	

教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計		大学全体					
	事 務 職 員		2 3 0 人 (2 3 0)		0 人 (0)		2 3 0 人 (2 3 0)							
	技 術 職 員		1, 0 2 2 (1, 0 2 2)		0 (0)		1, 0 2 2 (1, 0 2 2)							
	図 書 館 専 門 職 員		6 (6)		0 (0)		6 (6)							
	そ の 他 の 職 員		4 6 (4 6)		0 (0)		4 6 (4 6)							
	計		1, 3 0 4 (1, 3 0 4)		0 (0)		1, 3 0 4 (1, 3 0 4)							
校 地 等	区 分		専 用		共 用		共用する他の学校等の専用		計					
	校 舎 敷 地		1 3, 6 8 2 m ²		0 m ²		0 m ²		1 3, 6 8 2 m ²					
	運 動 場 用 地		4 3, 5 4 4 m ²		0 m ²		0 m ²		4 3, 5 4 4 m ²					
	小 計		5 7, 2 2 6 m ²		0 m ²		0 m ²		5 7, 2 2 6 m ²					
	そ の 他		1 6 9, 4 8 3 m ²		0 m ²		0 m ²		1 6 9, 4 8 3 m ²					
	合 計		2 2 6, 7 0 9 m ²		0 m ²		0 m ²		2 2 6, 7 0 9 m ²					
校 舎		専 用		共 用		共用する他の学校等の専用		計						
		4 8, 1 8 3 m ² (4 8, 1 8 3 m ²)		0 m ² (0 m ²)		0 m ² (0 m ²)		4 8, 1 8 3 m ² (4 8, 1 8 3 m ²)						
教室等	講義室		演習室		実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設					
	2 1 室		1 4 室		2 3 室		2 室 (補助職員0人)		1 室 (補助職員0人)					
専 任 教 員 研 究 室			新設学部等の名称				室 数							
			医学研究科 産業衛生学専攻				2 6 室							
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊		学術雑誌 〔うち外国書〕 種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕		視聴覚資料 点		機械・器具 点		標本 点	
	医学研究科 産業衛生学専攻		122,002 [42,356] (120,812 [42,282])		350 [200] (350 [200])		184 [183] (184 [183])		4,616 (4,616)		40,932 (40,932)		71 (71)	
	計		122,002 [42,356] (120,812 [42,282])		350 [200] (350 [200])		184 [183] (184 [183])		4,616 (4,616)		40,932 (40,932)		71 (71)	
図書館			面積			閲覧座席数			収 納 可 能 冊 数					
			2, 4 8 0 m ²			1 9 6			2 0 6, 6 6 7					
体育館			面積			体育館以外のスポーツ施設の概要								
			2, 1 3 0 m ²			武道館（弓道場、武道場）、屋内温水プール								
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分		開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コストを含む）を含む。大学全体			
		教員1人当り研究費等			450千円	450千円	－	－	－	－				
		共 同 研 究 費 等			19,000千円	19,000千円	－	－	－	－				
		図 書 購 入 費		56,990千円	56,990千円	56,990千円	－	－	－	－				
		設 備 購 入 費		274,000千円	274,000千円	274,000千円	－	－	－	－				
	学生1人当り納付金	第1年次		第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次						
		8 1 8 千円		5 3 6 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円						
学生納付金以外の維持方法の概要					産業医学助成費補助金、手数料収入、寄付金、補助金、資産運用収入、事業収入、雑収入 等									

既設大学等の状況	大 学 の 名 称	産業医科大学							所 在 地	
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学員 年次人	収容定員	学位又は 称号	定 員 超過率	開設 年度		
		年	人	人	人		倍			
	医学部									
	医学科	6	105	—	630	学士 (医学)	1.00	昭和53	福岡県北九州市八幡 西区医生ヶ丘1番1号	
	産業保健学部						1.00			
	看護学科	4	70	—	280	学士 (看護学)	1.00	平成8	福岡県北九州市八幡 西区医生ヶ丘1番1号	
	環境マネジメント学科	4	20	—	80	学士 (保健衛生学)	1.02	平成16	〃	
	大学院医学研究科									
	医学専攻	4	40	—	160	博士 (医学)	0.57	平成25	福岡県北九州市八幡 西区医生ヶ丘1番1号	
	生体適応系専攻	4	—	—	—	博士 (医学)	—	昭和59	〃	平成25年より 学生募集停止
	環境・産業生態系専攻	4	—	—	—	博士 (医学)	—	昭和59	〃	〃
	障害機構系専攻	4	—	—	—	博士 (医学)	—	昭和59	〃	〃
	生体情報系専攻	4	—	—	—	博士 (医学)	—	昭和59	〃	〃
附属施設の概要		名 称	産業医科大学病院							
		目 的	付属病院							
		所 在 地	福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘 1 番 1 号							
		設置年月	昭和54年7月							
		規 模 等	建物面積 53,809.16㎡							
		名 称	産業医科大学若松病院							
		目 的	付属病院							
		所 在 地	福岡県北九州市若松区浜町一丁目17番1号							
		設置年月	平成23年4月							
		規 模 等	建物面積 12,828.01㎡							
		名 称	産業生態科学研究所							
		目 的	産業医学を専門的に研究・教育する付属研究所							
		所 在 地	福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘 1 番 1 号							
		設置年月	昭和61年4月							
		規 模 等	建物面積 6,453.11㎡							
		名 称	産業医実務研修センター							
		目 的	産業医等の教育・修練を行う研修センター							
		所 在 地	福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘 1 番 1 号							
		設置年月	平成3年4月							
		規 模 等	建物面積 5,179.80㎡							

学校法人産業医科大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成25年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成26年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
産業医科大学				産業医科大学				
医学部				医学部				
医学科	105	—	630	医学科	105	—	630	
産業保健学部				産業保健学部				
看護学科	70	—	280	看護学科	70	—	280	
環境マネジメント学科	20	—	80	環境マネジメント学科	20	—	80	
計	90	—	360	計	90	—	360	
産業医科大学大学院				産業医科大学大学院				
医学研究科				医学研究科				
医学専攻	40	—	160	医学専攻	40	—	160	
				<u>産業衛生学専攻</u>	<u>10</u>	—	<u>20</u>	専攻の設置（認可申請）
				<u>看護学専攻</u>	<u>5</u>	—	<u>10</u>	専攻の設置（認可申請）
				計	<u>55</u>		<u>190</u>	

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要														
(大学院医学研究科 産業衛生学専攻)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
共通 科目	産業医学研究基盤コース	1前	1			○								兼1
	医学英語特別コース	1前	1			○								兼38 オムニバス
	産業衛生学研究概論	1通	4			○			13	2	4			兼1 オムニバス
	環境物理学	1後	2			○			1					
	環境化学	1後	2			○			1					
	環境生物学	1後	2			○			1					
	小計（6科目）		12	0	0	—			16	2	4	0	0	兼38
専門 科目	職業性腫瘍学特論	1後		4		○			1					
	職業性腫瘍学演習	2通		4			○		1					
	職業性腫瘍学実習	2通		4				○	1					
	職業性腫瘍学論文指導	2通		6			○		1					
	呼吸病態学特論	1後		4		○			1	1				オムニバス
	呼吸病態学演習	2通		4			○		1	1				オムニバス
	呼吸病態学実習	2通		4				○	1	1				オムニバス
	呼吸病態学論文指導	2通		6			○		1	1				
	産業保健経営学特論	1後		4		○			1		1			オムニバス
	産業保健経営学演習	2通		4			○		1		1			オムニバス
	産業保健経営学実習	2通		4				○	1		1			オムニバス
	産業保健経営学論文指導	2通		6			○		1		1			
	精神保健学特論	1後		4		○			1					
	精神保健学演習	2通		4			○		1					
	精神保健学実習	2通		4				○	1					
	精神保健学論文指導	2通		6			○		1					
	健康開発科学特論	1後		4		○			1	1				オムニバス・ 共同（一部）
	健康開発科学演習	2通		4			○		1	1				共同
	健康開発科学実習	2通		4				○	1	1				オムニバス・ 共同（一部）
	健康開発科学論文指導	2通		6			○		1	1				
	作業関連疾患予防学特論	1後		4		○			1					
	作業関連疾患予防学演習	2通		4			○		1					
	作業関連疾患予防学実習	2通		4				○	1					
	作業関連疾患予防学論文指導	2通		6			○		1					
	放射線健康医学特論	1後		4		○			1					
	放射線健康医学演習	2通		4			○		1					
	放射線健康医学実習	2通		4				○	1					
	放射線健康医学論文指導	2通		6			○		1					
	医学概論特論	1後		4		○			1					
	医学概論演習	2通		4			○		1					
	医学概論実習	2通		4				○	1					
	医学概論論文指導	2通		6			○		1					
	作業環境管理学特論	1後		4		○			1		3			オムニバス
	作業環境管理学演習	2通		4			○		1		3			オムニバス
	作業環境管理学実習	2通		4				○	1		3			オムニバス
	作業環境管理学論文指導	2通		6			○		1		3			
	産業衛生工学特論	1後		4		○			1		3			オムニバス
	産業衛生工学演習	2通		4			○		1		3			オムニバス
	産業衛生工学実習	2通		4				○	1		3			オムニバス
	産業衛生工学論文指導	2通		6			○		1		3			

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要															
(大学院医学研究科 産業衛生学専攻)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	産業人間工学特論	1後		4		○			1		1				オムニバス オムニバス
	産業人間工学演習	2通		4			○		1		1				
	産業人間工学実習	2通		4				○	1						オムニバス・ 共同(一部) オムニバス オムニバス・ 共同(一部)
	産業人間工学論文指導	2通		6			○		1						
	安全衛生マネジメント学特論	1後		4		○			1						
	安全衛生マネジメント学演習	2通		4			○		1						
	安全衛生マネジメント学実習	2通		4				○	1						
	安全衛生マネジメント学論文指導	2通		6			○		1						
	産業保健疫学特論	1後		4		○			1		1				
	産業保健疫学演習	2通		4			○		1	1	1				
	産業保健疫学実習	2通		4				○	1		1				
産業保健疫学論文指導	2通		6			○		1	1	1					
小計（52科目）		—	0	234	0	—			13	3	6	0	0		
合計（58科目）		—	12	234	0	—			16	3	6	0	0	兼38	
学位又は称号		修士（産業衛生学）			学位又は学科の分野				保健衛生学関係						
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
本学大学院医学研究科産業衛生学専攻に2年以上在学し、所定の授業科目を30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ学位論文の審査及び最終試験に合格することとする。								1学年の学期区分				2期			
								1学期の授業期間				15週			
								1時限の授業時間				90分			

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科産業衛生学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	産業医学研究基盤 コース	大学院生として知っておくべき産業衛生学研究の基盤的事項につき、単なる講義のみでなく、見学や討論、演習を積極的に取り入れたカリキュラムとする。具体的な内容は、①大学院の使命、②医学研究法、③トランスレーショナルリサーチ、④医学倫理・研究倫理、⑤研究における利益相反、⑥疫学、⑦統計学基礎、⑧医学英語、⑨医学情報学、⑩英語論文作成手法、⑪論文投稿・発表の倫理、⑫研究用微生物の取り扱い、⑬実験動物の倫理と法規制、⑭遺伝子組み換え、⑮RIを使ったバイオ実験および放射線取り扱いの基礎知識、である。	
	医学英語特別コース	(概要) 大学院の修了者は国際的に通用するグローバルな能力を持つことが期待される。それぞれの専門分野に精通した学内の教員による最新の話題を教材に用いた講義とディスカッションを全て英語で行うことにより、実践的な英語能力と知見を身につける。 〈オムニバス方式/8回選択必修〉 (51 森 本 景 之/1回) 細胞死の形態 (52 佐 藤 寛 晃/1回) 出血性ショックの法医学的診断法 (27 上 野 光/1回) がん細胞の自律的リプログラミング (28 岩 井 佳 子/1回) 医学における分子生物学の貢献 (29 上 田 陽 一/1回) 神経内分泌と生体の恒常性維持機構 (30 井 上 真 澄/1回) 副腎髄質細胞におけるGABAの役割 (31 柳 原 延 章/1回) 交感神経系伝達物質の動態に及ぼす臨床治療薬物や植物由来化合物の影響についての英語での講義 (32 川 本 俊 弘/1回) Encyclopedia of Environmental Health [環境保健百科事典] (Nriagu J. Kawamoto T. et al., Elsevier, 2011)を抄読する。 (54 大津山 彰/1回) 発がんの分子機構と放射線 Molecular Mechanisms of Carcinogenesis and Radiation Damages (33 明 星 敏 彦/1回) 化学物質のリスクアセスメントとリスクマネジメント (35 高 橋 謙/1回) 疫学およびグローバル産業保健への応用 (36 松 田 晋 哉/1回) 日本の公衆衛生の課題 (53 吉 田 安 宏/1回) 自然免疫と獲得免疫 (55 長 田 良 雄/1回) 寄生虫感染と免疫 (37 堀 江 正 知/1回) 1)産業保健政策の概要、2)労働衛生分野のリスクアセスメント、3)産業保健活動の倫理 (56 赤 松 直 樹/1回) 神経生理学の進歩 (57 新 開 隆 弘/1回) 臨床薬理学的な研究や職場のメンタルヘルスの動向などについて解説する。 (38 田 中 良 哉/1回) 臨床免疫学の治療の最先端 (39 久 岡 正 典/1回) 腫瘍の分子病理とゲノミクス (40 山 口 幸 二/1回) 合成リチノイドと抗腫瘍メカニズム	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科産業衛生学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	医学英語特別コース	(41 田 中 文 啓/1回) 肺癌研究と臨床における最新の知見 (58 酒 井 昭 典/1回) 骨・骨髄損傷後の修復過程における骨形成シグナル (59 和 田 太/1回) 高次脳機能に関する夏期特別英語講義 (58 酒 井 昭 典/1回) メカニカルストレスの増減と骨形成シグナルの変化 (42 原 田 大/1回) ウイルソン病の分子機構 (43 中 村 元 信/1回) 皮膚アレルギー疾患 (60 藤 本 直 浩/1回) アンドロゲンと前立腺癌 (44 尾 辻 豊/1回) 虚血性僧帽弁逆流の機序と対策 (45 興 梶 征 典/1回) 水俣病（有機水銀中毒）の脳画像所見と病理 (46 迎 寛/1回) デフェンシンと呼吸器疾患 (61 泉 博 之/1回) ヒューマン・マシン・インターフェイス設計における人間中心設計の考え方 (47 西 澤 茂/1回) くも膜下出血後の脳血管攣縮発生機序 (62 近 藤 寛 之/1回) 全身疾患にみられる眼病変 (48 鈴 木 秀 明/1回) 騒音性難聴の病態 (63 川 崎 貴 士/1回) 侵襲下での呼吸、循環機能の変化とその制御 (49 蜂須賀 徹/1回) 婦人科悪性腫瘍の臨床病理学的解析 (50 楠 原 浩 一/1回) 感染症の宿主遺伝要因 (64 下 野 昌 幸/1回) 繰り返し単純弁別課題を行う時の高次情報処理過程の変化を誘発電位を用いて推察する。 (34 上 野 晋/1回) 化学物質による中枢神経毒性の発症機序	
	産業衛生学研究概論	(概要) 産業衛生学専攻の授業を担当するすべての講座等が協力して、本学で行われている産業衛生学研究の概要を紹介し、広範な最新の知識を得るとともに、これから研究を進めるにあたって必要なりサーチマインドの熟成を図る。単なる講義のみでなく、討論や演習を積極的に取り入れることにより、より実践的な知識の習得を目指す。 (オムニバス方式/全30回) (37 堀 江 正 知/2回) 産業衛生学入門 職業性疾病の予防に関係する医学、工学、保健学、心理学、法学等に基づく学際的な科学を基盤とした産業衛生学の特徴的な視点、歴史的な発展、法令や専門職の制度、産業界の現状、将来的な課題等を理解する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科産業衛生学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	産業衛生学研究概論	(① 河 井 一 明/2回) 化学物質管理学 職業がんの歴史と原因物質についてまとめ、発がん性物質の管理取り扱いの現状について講義やカンファレンスを通して学び、理解する。 (② 森 本 泰 夫/2回) 職業性疾病予防学 様々な職業性肺疾患のうち、じん肺、石綿を含む職業性肺腫瘍、職業性喘息、過敏性肺炎などを中心にその特徴、基礎的な病態生理を習得するのが目的である。さらに各種の職業性肺疾患の歴史や現状を学び、産業医学的意義を理解する。 (③ 森 晃 爾/1回、②① 梶 木 繁 之/1回) 産業保健政策学 産業保健活動の実施には、方針と存在するリスクに基づき仕組みを構築した上で、労働者の健康課題を継続的に改善するマネジメント的な手法と、産業保健専門職の立場から事業者と労働者を顧客として位置づけ、サービスを提供するマーケティング的手法がある。その概念と応用方法について学ぶのが、産業保健政策学の目的である。 (④ 廣 尚 典/2回) 産業精神保健学 まず我が国における産業精神保健の歴史を、他の産業保健活動や地域医療等と関連づけながら概観し、次にその現状を、研究および行政の動向を含めて整理する。さらに、それらを踏まえて、今後この領域で研究および議論されるべき事項（職場のストレスに関する評価と改善、職場復帰支援の方法論など）とその方向性をまとめる。 (⑥ 大 神 明/2回) 作業関連疾患予防学 職域における産業保健の課題として、特に先進諸国においては従来の職業性疾病に代わり重要な対策対象となっている作業関連疾患の範囲、就業との関連、発症および進展予防に資する対策について理解し、現場での対策、教育の方法を習得する。受講者は個々の範疇に属する疾患については基礎知識を有することを前提して、事業においては対策実施の企業活動上の意義、効果についてのエビデンスを提示し、適宜ケースメソッド教授法による討論を組み入れ、また演習ではグループワークによる課題への対策案の作成を通じて、実践力を身につけることを図る。 (⑦ 岡 崎 龍 史/2回) 放射線障害予防学 放射線障害の歴史から、これまでのどのような障害があり、どのように対策を講じてきたのかを講義を通して学び理解し、今後起こりうる新たな問題点や対策方法を検討していくことが目的である。	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科産業衛生学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	産業衛生学研究概論	(⑧ 藤 野 昭 宏/2回) 産業衛生学研究の歴史と倫理 産業衛生学研究の歴史的展開と現在の課題及び産業衛生学の研究倫理の特徴について参加型講義やカンファレンスを通して学び理解し、産業衛生学研究の歴史、意義、研究倫理のあり方などの基本を習得することが目的である。特に、人を対象とした産業衛生学研究の科学的・社会的及び倫理的意義について理解することを目標とする。 (⑨ 吉 川 正 博/1回、⑫ 石 松 維 世/1回) 作業環境計測入門 作業環境空気中有害物質の最新の計測技術、また、空気中に浮遊する細菌や真菌の最新の計測技術・評価方法について講義やカンファレンスを中心に学び、最新の計測制御手法の習得を目指す。 (⑩ 保 利 一/1回、⑭ 石田尾 徹/1回) 産業衛生工学 有害化学物質の性質、作業環境中の挙動、評価、改善手法について講義やカンファレンスを中心として、産業衛生工学の基本の習得を目指すのが目的である。 (⑪ 三 宅 晋 司/1回、⑮ 庄 司 卓 郎/1回) 人間工学 疲労、ストレス、メンタルワークロードの評価における心理生理学的手法とその例を解説する。 ヒューマンエラーが原因とされる事故事例について、人間工学的改善方法とシステムの人間工学的設計について解説する。 (⑥ 大 和 浩/1回、⑯ 太 田 雅 規/1回) 健康開発科学領域の未知の課題 健康開発科学領域の研究として、禁煙に関する領域および運動介入に関する領域についての最新の知識を習得し、これから研究を進めるにあたって必要なリサーチマインドの醸成を図る。単なる講義のみでなく、討論や演習を積極的に取り入れ、実践的な知識の習得を目指す。 (⑫ 伊 藤 昭 好/2回) リスクアセスメントの実際 化学物質や物理要因などの有害要因のリスクアセスメントについて、講義で具体的な事例を紹介し、グループ討議を通して、リスクアセスメントの基本的な枠組みについて理解を深めることが目的である。 (⑬ 中 谷 淳 子/2回) 産業保健看護学 産業保健看護学研究の歴史的展開と現在の課題及び今後の展望について参加型講義やカンファレンスを通して学び理解し、看護の視点から「労働と健康の調和をはかる」ことの本質とアプローチ法の特徴を理解する。ディベート等を通して実践的知識習得を目指すことから、データの解析方法、結果の解釈のしかた、結論の導き方、論文の書き方、実践学問としての現場への役立て方等についても触れる。	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科産業衛生学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	産業衛生学研究概論	① 中 田 光 紀/2回) 生物統計学・疫学 産業保健疫学領域で応用されている生物統計学や疫学手法について論文を中心に批判的に熟読する。批評や精読に用いる産業保健疫学関係の論文は、国内外において英文で出版された原著論文を中心に行う。また、最新の研究手法に関する知識を習得し、これからの未知の課題や予測しえる課題について考える。講義のみではなく、ディベート等を通して実践的な知識の習得を目指すことから、データの解析方法、論文の書き方、結論の導き方等についても触れる。	
	環境物理学	物理学を学ぶ重要性は二つある。一つは我々を取り巻く環境で起こる、産業衛生学に関する諸現象を物理法則を用いて理解することである。ここでは現象を計測するための測定機器の原理の理解も含まれる。もう一つは論理的思考の訓練である。物理学は少ない原理をもとに合理的・論理的に現象の説明を行う。そのため物理学を学ぶことは、目の前の問題に対して論理的な思考を通して解決を図るための基礎トレーニングとなる。前半では物理学の基本を紹介する。毎回講義時間の最後に小テストを行い理解を定着させる。後半では実際に手を動かして簡単な回路などを製作し、身近な現象に関する実習を行う。最後に実習で行ったテーマに関する発表会を行う。	
	環境化学	大気、水圏、土壌に含まれる有害物質の化学的性質、作用機構、汚染防御方法を系統講義をすることによって、環境化学の基礎知識を確実に習得する。その後、過去に起こった公害問題について、その原因、経過、問題点、予防法、対処法に関するグループ討論を行い、発表する。これにより、問題探索・問題解決型の能動的思考法を習得することを目標とする。	
	環境生物学	生物としての人間に対する環境からの作用と、それによって引き起こされる様々な生命現象を理解するのに必要な、生命科学の基礎的な事象について学ぶ。生命科学分野においては、現在までに得られた知見は膨大なものであり、限られた時間ですべてを学ぶ事は困難である。本科目では生きているという事の基本的なframework、「生物の枠組み」を理解することを目指す。講義中に随時質問を受け、討論をする少人数のセミナー形式で行う。生物学を体系的に学んだ経験の無い受講者でも理解できるよう、身近な事柄からスタートし、最新の知見を含む、より高度な内容まで紹介する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科産業衛生学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 領域 科目	職業性腫瘍学特論	職業がんのこれまでの歴史ならびに環境に存在するがん原性物質について概説した後、がん原性物質の物理・化学的性質や遺伝子DNAへの影響を講義し、その発がんメカニズムを理解する。さらには発がん性に関するリスク評価や新規の化学物質の発がん性を予測する方法について、講義やカンファレンスを中心として基礎知識を得ると同時に、発がん性物質の管理ならびに職業がんの予防対策に実践応用するための能力の習得を目指すことを目的とする。	
	職業性腫瘍学演習	職業がんの歴史、発がんの原因物質、発がん機構を整理し、発がん性を予測する試験、発がん性化学物質の取り扱い、管理について、文献や事例を調査し検討する中で、効率的に正しく理解する能力やその過程で得た情報を適切にまとめて報告し討論を行う事ができる基礎的能力を、演習をとして学ぶ。その過程で得られる知識や経験を生かし、職業がんの予防に向けた取り組みを実践できる能力を身につけることを目標とする。	
	職業性腫瘍学実習	職業がんの歴史、発がんの原因物質、発がん機構を整理し、発がん性を予測する試験、発がん性化学物質の取り扱い、管理について実習をとして学ぶ。実習テーマについて自ら計画し調査する方法を学ぶとともに変異原性解析などの具体的な実験研究を経験し、実験研究手法の基礎を学ぶ。実習をとおして職業がんの予防に向けた取り組みを実践する具体的な方法について計画、立案し、結果を得る能力を身につけることを目標とする。	
	職業性腫瘍学論文指導	職業がんの予防や低減に向けて、特論、演習、実習などで得た知識、経験をもとに問題となる研究論文課題を見出し、適切で具体的な研究計画の作成とそれを実行する方法および能力を習得する。さらに、得られた結果の解析方法を学び、結果のまとめと考察をとおして研究結果の意義づけと評価を行う。研究成果は、研究会や学会での発表、論文としてまとめて報告する取り組みをとおして、社会に発信できる能力の習得を目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科産業衛生学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 領域 科目	呼吸病態学特論	(概要) じん肺やアレルギー疾患を含めた多岐にわたる職業性肺疾患を全般にわたり、講義やカンファレンスを中心として、疾患の特徴や病態生理の習得と応用性の獲得のための知識の蓄積を目指す。さらに画像所見と疾患の特徴を関連性を学び、総合的な病態の習得をめざす。 (オムニバス方式/全30回) (② 森 本 泰 夫/20回) 職業性肺疾患の歴史：職業性肺疾患の変遷、 職業性肺疾患の基礎2：職業起因のアレルギー疾患の特徴、 職業性肺疾患の病態生理2：職業起因のアレルギー疾患の病態生理、 胸部レントゲン写真の読影の基礎：胸部レントゲン写真の読影方法、 じん肺のレントゲン写真読影1：じん肺のレントゲン写真の実践読影1、 じん肺のレントゲン写真読影2：じん肺のレントゲン写真の実践読影2、 胸部CTの読影の基礎：胸部CT写真の読影方法、 じん肺における胸部CTの読影：じん肺の胸部CT写真の実践読影、 職業性肺疾患の診断：職業性肺疾患の診断方法と診断、 職業性疾患の労働衛生管理：職業性疾患の労働衛生管理の手法 (⑬ 和 泉 弘 人/10回) 職業性肺疾患の基礎1：じん肺や肺腫瘍の特徴、 職業性肺疾患の基礎3：職業起因の炎症性疾患の特徴、 職業性肺疾患の病態生理1：職業起因の炎症性疾患の病態生理、 職業性肺疾患の病態生理3：職業起因の炎症・線維化の病態生理、 分子生物学的アプローチの基礎：分子生物学的アプローチの基礎的概念とその手法	オムニバス方式
	呼吸病態学演習	(概要) 職業性肺疾患や分子生物学的アプローチの手法に関する幅広い基礎知識を実践的に習得するため、抄読会、カンファレンス、研究会などの多彩な機会を通して行う。さらにこれらの機会において自らの発表を行い、知識のさらなる向上をめざすとともに研究発表や討論能力の基礎的指向性の習得を目指す。 (オムニバス方式/全30回) (② 森 本 泰 夫/10回) 動物モデルやスクリーニングモデル等を介して研究アプローチの手法やその解析方法の基礎知識の習得を図る。 (⑬ 和 泉 弘 人/20回) 職業性肺疾患の病態、分子生物学的アプローチや画像解析に関わる論文をとおして、基礎知識の習得を図る。研究アプローチの手法やその解析方法の指導を行うとともに、得られた結果の解釈の仕方、まとめ方についての実践的な演習を行う。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科産業衛生学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 領域 科目	呼吸病態学実習	(概要) 職業性肺疾患に関する研究テーマのプランを指導教員の下に企画し、具体的な研究の目的、計画、評価手法などを議論し、研究デザインの構築を図る。カンファレンス、抄読会等を介して、研究デザインを随時討議して、プレゼンテーションやコミュニケーションスキルの習得を目指す。一方、学会発表等においては、より高度のプレゼンテーションやコミュニケーション能力を身につけ、職業性肺疾患を系統的に考察できる知識と理解力を養う。 (オムニバス方式/全60回) (② 森 本 泰 夫/36回) 動物モデルやスクリーニングモデル等を介して研究アプローチの手法やその解析方法のデザインの構築を習得する。 カンファレンス、抄読会等を介して、研究アプローチの手法やその解析方法のデザインの構築の正当性や妥当性を検討する能力を習得する。 カンファレンス、抄読会等を介して、プレゼンテーションやコミュニケーション能力の充実化を図る。 (⑬ 和 泉 弘 人/24回) 研究テーマの指導を行うとともに、テーマに基づいたアプローチの手法やその解析方法を自ら提案させる。 研究アプローチの手法やその解析方法の指導を行うとともに、得られた結果の解釈の仕方、まとめ方についての実践的な実習を行う。	オムニバス方式
	呼吸病態学論文指導	(概要) 研究テーマにおいて得られた結果を、教員の指導の下、データの妥当性や信頼性を検証し、問題の分析、調査、論理的思考能力を養う。このような過程を繰り返して研究のまとめ方を学ぶ。報告書または論文の執筆においては、論文の独創性・科学的意義を遂行しつつ、結果から導き出された新たな事実を検証し、完成させる。これらを通して自ら科学的に問題を発見し、解決する能力を養成する。 (② 森 本 泰 夫) 研究テーマにおいて得られた結果のまとめ方についての実践的な報告書又は論文指導を行う。 (⑬ 和 泉 弘 人) 研究テーマにおいて得られた結果の解釈の仕方について、科学的論理思考ができるように指導する。 カンファレンス、抄読会等を介して、プレゼンテーションやコミュニケーション能力の更なる充実化を図るとともに、自身の研究テーマとの整合性等を検証させ、報告書や論文における考察する能力を養う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科産業衛生学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 領域 科目	産業保健経営学特論	(概要) 産業保健経営学全般にわたり、講義やカンファレンスを中心として、基礎知識を得ると同時に実践応用するための知見を蓄積する。すなわち、産業衛生学の基盤となる産業保健経営学の基本を学び、発展応用する能力を習得することが目的である。 (オムニバス方式/全30回) (③ 森 晃 爾/20回) 企業と経営：企業の成り立ち、企業経営の基本、企業の中での人材：人材育成、人材の価値、リーダーシップ、 産業保健組織経営：企業活動としての産業保健、マネジメントシステムの理解：マネジメントシステム、外部認証、 OSHMSの文書化：基本方針、システムマニュアル、手順書、 OSHMSにおける大きなPDCA：基本方針、目標、計画、評価、改善、 企業の危機管理と産業保健：危機管理、事業継続計画、危機管理体制、 産業保健活動のコスト：コスト集計表、直接経費、間接経費、投資、 産業保健活動の経済的評価：アブセンティーズム、プレゼンティーズム、非定量的手法、 CSRと産業保健活動：企業の社会的責任、CSR報告書と産業保健 (②) 梶 木 繁 之/10回) 産業保健サービスの外部委託：労働衛生機関、第三者評価、多職種連携、 中小企業と産業保健：中小企業の特徴、産業保健活動の提供手法、産業保健センター、 OSHMSにおける監査：内部監査、監査報告書、 マーケティングと産業保健：マーケティング、ソーシャルマーケティング、ソサイエタルマーケティング、 産業保健のマーケティング戦略：産業保健マーケティング、チームビルディング	オムニバス方式
	産業保健経営学演習	(概要) ケースメソッド、抄読会、カンファレンスなどの多彩な機会を通して、産業保健学全般にわたる幅広い基礎知識を実践的に習得するとともに、大学院生自ら発表・議論を行うことにより、プレゼンテーションおよびディスカッション能力の基礎を身につける。 (オムニバス方式/全30回) (③ 森 晃 爾/15回) 主にマネジメントシステムおよび費用対効果分析について、学習課題を含むケースによるケースメソッド教授法を用いた研修、テーブルトップドリルによる実践的研修などを基本とする。 (②) 梶 木 繁 之/15回) 主にチームビルディングおよびマーケティング手法について、学習課題を含むケースによるケースメソッド教授法を用いた研修、日常の題材を用いた実践による研修を行う。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科産業衛生学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 領域 科目	産業保健経営学実習	(概要) 特定の事業場題材として、そこでの産業保健活動のニーズや課題を明確化して、産業保健経営学の手法の応用を、指導教員の下で具体的に検討する。担当教員との討論、ケーススタディ、事例の収集などを基本とする。 (オムニバス方式/全60回) ③ 森 晃 爾/30回 主にマネジメントシステムおよび費用対効果分析について、実際の事業場事例を用いて実習を行う。また、その検討成果は、ケースメソッド用のケースとして作成する。 ②① 梶 木 繁 之/30回 主にマーケティング手法について、実際の事業場事例を用いて実習を行う。またチーム運営やリーダーシップについて、適切な事業場の事例を取材して、ケーススタディを行う。	オムニバス方式
	産業保健経営学論文指導	(概要) 自分の研究テーマについて結果が得られたら、指導教員のもと統計学的手法も用いて実験結果について討論し、問題点を明らかにする。このような過程を繰り返して研究のまとめ方を学ぶ。論文執筆においては、実際に論文を書きながら、指導教員との議論、繰り返しの修正過程などの経験を通して、論文の構造・構成、記載法、さらに論文投稿・発表の倫理などを系統的かつ実践的に修得する。 ③ 森 晃 爾) 選択した論文テーマに関して、研究手法や研究倫理などの指導を行うとともに、得られた結果の解釈の仕方、まとめ方についての実践的な論文指導を行う。 ②① 梶 木 繁 之) 選択した論文テーマに関して、研究手法や研究倫理などの指導を行うとともに、得られた結果の解釈の仕方、まとめ方についての実践的な論文指導を行う。	
	精神保健学特論	講義やカンファレンス等を通じて、黎明期からの歩みも含めた、産業精神保健学の全般にわたる基礎知識を多角的に修得するとともに、それを実践で柔軟に応用するための経験を蓄積する。また、今後のこの領域に関する研究が目指すべき方向性に関して、産業衛生学内外の関連領域との協働を絡めて考察する。すなわち、産業衛生学の重要な基盤のひとつとなる産業精神保健学の基本を学び、それを発展応用する能力の修得を目指すことが目的である。	
	精神保健学演習	抄読会、カンファレンス、セミナー、研究会等の多彩な機会を通して、産業精神保健学全般にわたる幅広い基礎知識を実践的に修得するとともに、大学院生自ら発表・議論を行うことにより、プレゼンテーションおよびディスカッション能力の基礎を身につける。例えば、産業精神保健学に関連する最新の英文原著論文を読んで、抄読会で紹介するとともに、問題点を議論する。これらを通じて、自ら研究テーマを見出し、解決していく能力の獲得を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科産業衛生学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 領域 科目	精神保健学実習	自らの研究テーマの概要を決めたのち、指導教員の下で具体的な研究の方向性や手技・手法、研究倫理等に関する議論を行い、研究の組み立てを学ぶ。指導を受けながら実際に研究を開始し、得られた結果に対して、その都度議論する。研究結果の討論などを通して、科学的なものの考え方、リサーチマインドを理解する。学会発表等においては、発表のまとめ方を含め、より高度のプレゼンテーション能力を身につける。	
	精神保健学論文指導	自らの研究テーマについて結果が得られたら、指導教員のもと、統計学的手法も用いて実験結果について討論し、問題点を明らかにする。このような過程を繰り返して、研究のまとめ方を学ぶ。論文執筆においては、実際に論文を書きながら、指導教員との議論、繰り返しの修正過程などの経験を通して、論文の構造・構成、記載法、さらに論文投稿・発表の倫理などを系統的かつ実践的に修得する。	
	健康開発科学特論	(概要) 健康開発科学の全般にわたり、講義やカンファレンスを中心として、基礎知識を得ると同時に実践応用するための経験を蓄積する。すなわち、産業衛生学の基盤となる健康開発科学の基本を学び、発展応用する能力の習得を目指すのが目的である。 (オムニバス方式/全30回) (⑤ 大 和 浩/12回) 健康管理Ⅰ：健康診断の実施計画 健康管理Ⅱ：健康診断の判定と事後措置 健康管理Ⅲ：有害業務（酸欠、有毒ガス取扱） 健康増進Ⅳ：健康教育・保健指導の実践 健康増進Ⅴ：職場で応用できる様々な運動 地域における健康増進活動Ⅱ：民間を中心とした健康増進施設の見学 (⑩ 太 田 雅 規/8回) 健康増進Ⅰ：健康開発科学総論 健康増進Ⅱ：健康開発科学における生活習慣病対策 健康増進Ⅲ：事業場における健康増進活動の実践 地域における健康増進活動Ⅰ：地域の健康増進施設の見学 (⑤ 大 和 浩・⑩ 太 田 雅 規/10回) (共同) THP実習Ⅰ：運動負荷テストの実践 THP実習Ⅱ：運動機能テストの実践 THP実習Ⅲ：運動処方作成 THP実習Ⅳ：健康増進プログラムの企画・立案（グループディスカッション） THP実習Ⅴ：健康増進プログラムの企画・立案（発表）	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科産業衛生学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 領域 科目	健康開発科学演習	抄読会、カンファレンス、セミナー、研究会などの多彩な機会を通して、健康開発科学全般にわたる幅広い基礎知識を実践的に習得するとともに、大学院生自ら発表・議論を行うことにより、プレゼンテーションおよびディスカッション能力の基礎を身につける。例えば、健康開発科学に関連する最新の英文原著論文を読んで、抄読会で紹介するとともに問題点を議論する。これらを通じて、自ら研究テーマを見出し、解決していく能力の獲得を目指す。	共同
	健康開発科学実習	(概要) 自分の研究テーマの概要が決まったのち、指導教員のもとで具体的な研究の方向性や手技・手法、研究倫理などに関する議論を行い、研究の組み立てを学ぶ。指導を受けながら実際に研究を開始し、得られた結果に対してその都度議論する。研究結果の討論などを通して、科学的なものの考え方、リサーチマインドを理解する。学会発表等においては、発表のまとめ方を含め、より高度のプレゼンテーション能力を身につける。 (オムニバス方式/全60回) (⑤ 大 和 浩/15回) 禁煙に関連する領域を中心に、実験手技・手法、解析法に関する研究指導を行う。 (⑤ 大 和 浩・⑩ 太 田 雅 規/45回) (共同) 選択したテーマに関して、研究手法や研究倫理などの指導を行うとともに、得られた結果の解釈の仕方、まとめ方についての実践的な指導を行う。 運動領域や生化学領域を中心に、実験手技・手法、解析法に関する研究指導を行う。 学会発表を通して、発表のまとめ方を含め、より高度のプレゼンテーション能力を身につける。	オムニバス方式・共同（一部）
	健康開発科学論文指導	(概要) 自分の研究テーマについて結果が得られたら、指導教員のもと統計学的手法も用いて実験結果について話し、問題点を明らかにする。このような過程を繰り返して研究のまとめ方を学ぶ。論文執筆においては、実際に論文を書きながら、指導教員との議論、繰り返しの修正過程などの経験を通して、論文の構造・構成、記載法、さらに論文投稿・発表の倫理などを系統的かつ実践的に習得する。 (⑤ 大 和 浩) 研究テーマのデータに対して統計学的手法も用いて検討し、問題点を明らかにする。 論文の構造・構成、記載法、さらに論文投稿・発表の倫理などを系統的かつ実践的に指導する。 (⑩ 太 田 雅 規) 研究テーマのデータに対して統計学的手法も用いて検討し、問題点を明らかにする。 論文の構造・構成、記載法、さらに論文投稿・発表の倫理などを系統的かつ実践的に指導する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科産業衛生学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 領域 科目	作業関連疾患予防学 特論	職域における産業医としての業務の中で就業者の疾病把握に基づく適正配置は基本的業務であり、この遂行ためには疾病（作業関連疾患）についての理解は必須である。高年齢者への就業機会の推進の中で、疾病を持ちながらの就労は不可避であり、産業保健上の対応の重要性は増している。本コースでは作業関連疾患の概念を理解し、職場復帰、適正配置にあたって、企業が準備できる条件、個人の権利と意思の尊重、協働者への配慮などの事項を含めて講義し、課題提示を行う。併せて、各領域の疾患についての労災認定・安全配慮に関わる事項についても事例を交えて解説する。	
	作業関連疾患予防学 演習	抄読会、カンファレンス、セミナー、研究会などの多彩な機会を通して、作業関連疾患予防学の幅広い基礎知識を実践的に習得するとともに、大学院生自ら発表・議論を行うことにより、プレゼンテーションおよびディスカッション能力の基礎を身につける。例えば、作業関連疾患に関連する最新の英文原著論文を読んで、抄読会で紹介するとともに問題点を議論する。これらを通じて、自ら研究テーマを見出し、解決していく能力の獲得を目指す。	
	作業関連疾患予防学 実習	自分の研究テーマの概要が決まったのち、指導教員の下で具体的な研究の方向性や手技・手法、倫理的配慮などに関する議論を行い、研究の組み立てを学ぶ。指導を受けながら実際に研究を開始し、得られた結果に対してその都度議論する。研究結果の討論などを通して、作業関連疾患に対する科学的及び倫理的なものの考え方、リサーチマインドを理解する。学会発表等においては、発表のまとめ方を含め、より高度のプレゼンテーション能力を身につける。	
	作業関連疾患予防学 論文指導	自分の研究テーマについて結果が得られたら、指導教員のもと統計学的手法も用いて調査結果について討論し、問題点を明らかにする。このような過程を繰り返して研究のまとめ方を学ぶ。論文執筆においては、実際に論文を書きながら、指導教員との議論、繰り返しの修正過程などの経験を通して、論文の構造・構成、記載法、さらに論文投稿・発表の倫理などを系統的かつ実践的に修得する。	
	放射線健康医学特論	放射線衛生全般にわたり、講義やカンファレンスを中心として、まず放射線の種類、性質（物質との相互作用等など）および人体影響など基礎知識を得ると同時に、放射線障害の歴史、放射線防護、放射線安全管理、放射線取り扱いおよび放射線関連法令を学び、実践応用するための知識を蓄積していく。すなわち、放射線生物学、放射線物理学および放射線衛生学を学び、放射線業務に携わる際に、正しく対処し、また発展応用する能力の習得を目指すのが目的である。	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科産業衛生学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 領域 科目	放射線健康医学演習	抄読会、カンファレンス、セミナー、研究会などの多彩な機会を通して、放射線衛生の幅広い基礎知識を実践的に習得するとともに、大学院生自ら発表・議論を行うことにより、プレゼンテーションおよびディスカッション能力の基礎を身につける。例えば、放射線衛生に関連する最新の英文原著論文を読んで、抄読会で紹介するとともに問題点を議論する。これらを通じて、自ら研究テーマを見出し、解決していく能力の獲得を目指す。	
	放射線健康医学実習	自分の研究テーマの概要が決まったのち、指導教員の下で具体的な研究の方向性や手技・手法、研究倫理などに関する議論を行い、研究の組み立てを学ぶ。指導を受けながら実際に研究を開始し、得られた結果に対してその都度議論する。研究結果の討論などを通して、科学的及び倫理的なものの考え方、リサーチマインドを理解する。学会発表等においては、発表のまとめ方を含め、より高度のプレゼンテーション能力を身につける。	
	放射線健康医学論文指導	自分の研究テーマについて結果が得られたら、指導教員のもと統計学的手法も用いて調査結果について討論し、問題点を明らかにする。このような過程を繰り返して研究のまとめ方を学ぶ。論文執筆においては、実際に論文を書きながら、指導教員との議論、繰り返しの修正過程などの経験を通して、論文の構造・構成、記載法、さらに論文投稿・発表の倫理などを系統的かつ実践的に修得する。	
	医学概論特論	産業衛生における医学概論（生命倫理学・医療人類学）の全般にわたり、講義やカンファレンスを中心として、基礎知識を得ると同時に実践応用するための経験を蓄積する。すなわち、産業衛生学の基盤となる医学概論（生命倫理学・医療人類学）の基本を学び、発展応用する能力の習得を目指すのが目的である。	
	医学概論演習	抄読会、カンファレンス、セミナー、研究会などの多彩な機会を通して、産業衛生における医学概論（生命倫理学・医療人類学）の幅広い基礎知識を実践的に習得するとともに、大学院生自ら発表・議論を行うことにより、プレゼンテーションおよびディスカッション能力の基礎を身につける。例えば、産業衛生に置ける医学概論（生命倫理学・医療人類学）に関連する最新の英文原著論文を読んで、抄読会で紹介するとともに問題点を議論する。これらを通じて、自ら研究テーマを見出し、解決していく能力の獲得を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科産業衛生学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 領域 科目	医学概論実習	自分の研究テーマの概要が決まったのち、指導教員の下で具体的な研究の方向性や手技・手法、研究倫理などに関する議論を行い、研究の組み立てを学ぶ。指導を受けながら実際に研究を開始し、得られた結果に対してその都度議論する。研究結果の討論などを通して、科学的及び倫理的なものの考え方、リサーチマインドを理解する。学会発表等においては、発表のまとめ方を含め、より高度のプレゼンテーション能力を身につける。	
	医学概論論文指導	自分の研究テーマについて結果が得られたら、指導教員のもと統計学的手法も用いて調査結果について討論し、問題点を明らかにする。このような過程を繰り返して研究のまとめ方を学ぶ。論文執筆においては、実際に論文を書きながら、指導教員との議論、繰り返しの修正過程などの経験を通して、論文の構造・構成、記載法、さらに論文投稿・発表の倫理などを系統的かつ実践的に修得する。	
	作業環境管理学特論	(概要) 我が国の作業環境管理の基本的な考え方、作業環境測定の意義、最新の計測技術、リスク評価、曝露アセスメント手法および作業管理の方法をオムニバス形式の講義やカンファレンスにより学ばせることにより、作業環境管理の基本、化学物質管理の実践応用に繋がられるような発展応用する能力の習得を目指す。 (オムニバス方式/全30回) ⑨ 吉 川 正 博/11回) 戦後労働衛生行政：労働衛生行政施策の歩み 危険有害性の特定：化学的環境因子、物理的環境因子、生物学的環境因子 作業環境計測技術：有機化合物の最新の計測技術 作業環境計測技術：重金属の最新の計測技術 リスク評価：曝露アセスメントの原理と実際 ⑫ 石 松 維 世/7回) 作業環境計測技術：粒子状物質の最新の計測技術 リスク削減：残留リスク管理 作業管理：作業管理の基本的な考え方 作業管理：労働衛生保護具の選択 ⑬ 笛田 由紀子/7回) 危険有害性の特定：曝露限界、生物学的曝露限界 リスク評価：有害性情報リスク評価 リスク評価：方法とリスクの優先順位の決定 ⑭ 石田尾 徹/5回) 作業環境計測技術：リアルタイムモニターの開発と応用 リスク削減：曝露の除去または曝露の削減方法	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科産業衛生学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 領域 科目	作業環境管理学演習	(概要) カンファレンス、セミナーなどの機会を通して作業環境管理学全般にわたる幅広い知識を実践的に習得するとともに、作業環境や作業方法等の問題点を指摘でき、かつ、改善案を提案できる高い能力を指導教員との討論を繰り返しながら修得する。これらを通して、研究テーマを見出し、問題を解決していく能力を養う。 (オムニバス方式/全30回) ⑨ 吉 川 正 博/8回) 研究テーマに関し、研究手法の指導を行うほか、得られた結果の解釈、まとめ方について実践的な演習を行う。 ⑫ 石 松 維 世/8回) 研究テーマに関し、研究手法、計測技術の選択、データの収集・解析等に関し、カンファレンス、セミナーなどにおいて実践的な演習を行う。 ⑬ 笛田 由紀子/7回) 研究テーマに関し、研究手法や有害性情報の収集、データ解析などに関し、カンファレンス、セミナーなどにおいて実践的な演習を行う。 ⑭ 石田尾 徹/7回) 研究テーマに関し、研究手法や計測技術の選択、データ解析等に関し、カンファレンス、セミナーなどにおいて実践的な演習を行う。	オムニバス方式
	作業環境管理学実習	(概要) 自らの研究テーマの概要を決定した後、指導教員の下で、具体的な研究の方向性や研究手法、計測技術法、データ解析などに関する議論を行い、研究の組み立てを学ぶ。指導を受けながら実際に研究し得られた結果を繰り返し議論する。これらの議論を通して、科学的、かつ論理的な考え方を理解する。また、学会発表等において、発表の仕方、より高度なプレゼンテーション能力を身につける。 (オムニバス方式/全60回) ⑨ 吉 川 正 博/15回) 研究テーマについて、研究手法、データの解釈などの指導を行うとともに、得られた結果の解釈の仕方、まとめ方について実践的な実習を行う。 ⑫ 石 松 維 世/15回) テーマについて、計測技術の選択と応用、データの収集と解析、まとめ方に関し、実践的な実習を行う。 ⑬ 笛田 由紀子/15回) テーマについて、データの収集と解析、まとめ方に関し、実践的な実習を行う。 ⑭ 石田尾 徹/15回) テーマについて、計測技術の選択と応用、データの収集と解析、まとめ方に関し、実践的な実習を行う。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科産業衛生学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 領域 科目	作業環境管理学論文 指導	(概要) 自分の研究テーマについて結果が得られたら、指導教員のもと実験結果について討論を行い、問題点等を明らかにする。このような過程を繰り返し行い、研究のまとめ方を学ぶ。論文作成においては、実際に論文を書きながら、指導教員との議論を踏まえ、繰返しの修正等を通して論文の構造、構成、記載法、さらには論文投稿・発表の倫理などを系統的、かつ、実践的に習得する。 ⑨ 吉 川 正 博) テーマに関して、研究手法、研究倫理などの指導を行うとともに、得られた結果の解釈の仕方、まとめ方について実践的な論文作成指導を行う。 ②② 石 松 維 世) テーマに関して、基礎実験ならびにデータ収集・解析法および論文のまとめ方について実践的な論文作成指導を行う。 ②③ 笛田 由紀子) テーマに関して、基礎実験ならびにデータ収集・解析法および論文のまとめ方について実践的な論文作成指導を行う。 ②④ 石田尾 徹) テーマに関して、基礎実験ならびにデータ収集・解析法および論文のまとめ方について実践的な論文作成指導を行う。	
	産業衛生工学特論	(概要) 労働環境における有害因子の発生のメカニズムとその制御法について学ぶことにより、産業衛生分野における工学的対策手法の重要性について認識するとともに、環境改善の効果的な方法を習得することを目標とする。 (オムニバス方式/全30回) (⑩ 保 利 一/24回) 産業衛生工学概論：産業衛生における工学の基本概念 物理的因子：騒音、振動、有害光線の性質と挙動 化学物質管理の方法：GHS, REACH, 毒劇法, 化審法, PRTR法の概要 個人ばく露濃度の方法：個人ばく露測定デザインの設計と評価 工学的対策の基本：工学的対策の一般的方法 局所排気装置の基本(I)：フード、ダクトの性質 局所排気装置の基本(II)：空気清浄装置、排風機の構造 局所排気装置の設計法(I)：フード、ダクトの設計 局所排気装置の設計法(II)：圧力損失の計算法 プッシュプル型換気装置：装置の特性と流量比法による設計法 全体換気装置：換気法の種類と評価方法 労働衛生保護具：保護具の性質と防護性能 ②④ 石田尾 徹/2回) 化学的因子：粉じん、有機溶剤、金属類の性質と挙動	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科産業衛生学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 領域 科目	産業衛生工学特論	②② 石 松 維 世/2回) 生物学的因子：生物因子の捕集と分析 ②③ 笛田 由紀子/2回) 化学物質の生体影響：化学物質の許容濃度と生体反応	
	産業衛生工学演習	(概要) 抄読会、カンファレンス、セミナー、研究会などの多彩な機会を通して、産業衛生工学全般にわたる幅広い基礎知識を実践的に習得するとともに、大学院生自ら発表・議論を行うことにより、プレゼンテーションおよびディスカッション能力の基礎を身につける。例えば、産業衛生工学に関連する最新の英文原著論文を読んで、抄読会で紹介するとともに問題点を議論する。これらを通じて、自ら研究テーマを見出し、解決していく能力の獲得を目指す。 (オムニバス方式/全30回) ⑩ 保 利 一/8回) 選択したテーマに関して、研究手法や研究倫理などの指導を行うとともに、得られた結果の解釈の仕方、まとめ方についての実践的な演習を行う。 ②④ 石田尾 徹/8回) 化学分析を中心に、分析機器の原理、基礎実験及び分析方法に関してカンファレンス、セミナーなどで実践的な演習を行う。 ②② 石 松 維 世/7回) 生物因子を中心に、環境気中のバイオエアロゾルの捕集、分析、同定に関してカンファレンス、セミナーなどで実践的な演習を行う。 ②③ 笛田 由紀子/7回) 曝露により体内に摂取された化学物質の体内での挙動、反応に基づいた曝露限界値の決定方法に関してカンファレンス、セミナーなどで実践的な演習を行う。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科産業衛生学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 領域 科目	産業衛生工学実習	(概要) 産業衛生工学に関連する課題を提示し、そのなかから、希望するテーマを選択し、指導教員の下で具体的な課題研究の方向性や手技・手法などに関する議論を行い、研究の組み立てを学ぶ。次に、指導を受けながら実際に研究を開始し、得られた結果に対してはその都度内容を検討し、討論することにより、科学的なものの考え方を身につける。得られた成果については積極的に学会発表等を行い、発表を通じて課題のまとめ方や高度のプレゼンテーション能力を身につける。 (オムニバス方式/全60回) (⑩ 保利 一/15回) 選択したテーマに関して、研究手法や研究倫理などの指導を行うとともに、得られた結果の解釈の仕方、まとめ方についての実践的な指導を行う。 (②④ 石田尾 徹/15回) 化学分析を中心に、工学的対策の実施に必要となる分析機器の原理、基礎実験及び分析方法に関する研究指導を行う。 (②② 石 松 維 世/15回) 生物因子を中心に、環境気中のバイオエアロゾルの捕集、分析、同定および対策に関する研究指導を行う。 (②③ 笛田 由紀子/15回) 曝露により体内に摂取された化学物質の体内での挙動、反応に基づいた曝露限界値の決定方法に関する研究指導を行う。	オムニバス方式
	産業衛生工学論文指導	(概要) 自分の研究テーマについて結果が得られたら、指導教員のもと、得られたデータについて、理論的考察を含め多方面から議論し、問題点を明らかにする。このような過程を繰り返すことにより研究のまとめ方を学ぶ。論文執筆においては、まず原案を作成し、これについて指導教員との議論、修正を繰り返すことにより、論文の構造・構成などを系統的かつ実践的に修得する。文献的考察を含め、最終的に成果を修士論文としてまとめる。 (⑩ 保利 一) 選択したテーマに関して、研究手法や研究倫理などの指導を行うとともに、得られた結果の解釈の仕方、まとめ方についての実践的な指導を行う。 (②④ 石田尾 徹) 化学分析を中心に、工学的対策の実施に必要となる分析機器の原理、基礎実験及び分析方法に関する論文指導を行う。 (②② 石 松 維 世) 生物因子を中心に、環境気中のバイオエアロゾルの捕集、分析、同定および対策に関する論文指導を行う。 (②③ 笛田 由紀子) 曝露により体内に摂取された化学物質の体内での挙動、反応に基づいた曝露限界値の決定方法に関する論文指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科産業衛生学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 領域 科目	産業人間工学特論	(概要) ひとの生理反応の特徴に続いて、疲労、メンタルワークロード、ストレス、快適性の説明を行うことで、これらの生理的評価方法を理解させる。次に身体人間工学とヒューマンエラー、事故事例を紹介し、産業人間工学の広い領域の知識を得るとともに、実習、論文作成に繋がられるような応用力を身につけることを目的とする。 (オムニバス方式/全30回) (⑪ 三宅晋司/22回) ひとの生理反応：自律神経系反応を主とした生体反応の基礎 生理計測：種々の生理計測の方法とその意義 産業疲労Ⅰ：疲労の概念とその評価法 産業疲労Ⅱ：慢性疲労の評価法 メンタルワークロード：メンタルワークロードの概念とその評価方法 ストレスⅠ：ストレスの概念、評価方法、対処法 快適性：快適性の概念とその構築方法 身体人間工学：作業関連筋骨格系障害、バイオメカニクス ヒューマンエラーⅠ：ヒューマンエラーに係わる事故事例と対策 産業事故Ⅰ：産業事故事例と対策 課題発表Ⅰ：前半の講義テーマに関して、学習成果を発表する。 課題発表Ⅱ：後半の講義テーマに関して、学習成果を発表する。 (⑫ 庄司卓郎/8回) 産業疲労Ⅲ：過重労働・長時間労働とその対策 ストレスⅡ：職業性ストレスとメンタルヘルス ストレスⅢ：職場のストレスマネジメント ストレスⅣ：ワーク・ファミリーコンフリクトと職場適応 ヒューマンエラーⅡ：ヒューマンエラーに係わる人間特性と対策 ヒューマンエラーⅢ：安全文化と安全行動 産業事故Ⅱ：事故分析 産業事故Ⅲ：安全工学的対策	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科産業衛生学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 領域 科目	産業人間工学演習	(概要) 抄読会、セミナーなどの多彩な機会を通して、人間工学の手法についての基礎知識を実践的に習得するとともに、大学院生自ら発表・議論を行うことにより、プレゼンテーションおよびディスカッション能力の基礎を身につける。例えば、人間工学に関連する最新の英文原著論文を読んで、抄読会で紹介するとともに問題点を議論する。これらを通じて、自ら研究テーマを見出し、解決していく能力の獲得を目指す。 (オムニバス方式/全30回) ① 三宅晋司/23回) 国内外の論文を紹介し、人間工学の観点から、社会情勢を学ぶための抄読会を行う。 自律神経系を中心として、生体反応とその評価方法を理解するための論文抄読会、カンファレンスを行う。 生理心理学的データを主体とした統計処理に関する指導と実践的な演習を行う。 ② 庄司卓郎/7回) 国内外の論文を紹介し、安全学の観点から、社会情勢を学ぶための抄読会を行う。	オムニバス方式
	産業人間工学実習	人間工学においてはひとの状態の計測が重要なポイントとなる。本実習では、生理的、主観的、他覚的にひとを評価する種々の手法を実習を通して学び、それらの意義とその応用について理解させる。取り上げる生理指標は自律神経系指標を中心として、実際の作業現場での作業員からの計測を考慮した簡便な測定機器も紹介する。主観指標は、疲労とメンタルワークロード評価において標準的に用いられている手法のいくつかの使用手法と集計方法を習得させる。さらに発展的に、厳密に統制された実験室実験で、疲労やメンタルワークロード評価が行えるような研究レベルのノウハウの修得を目指す。	
	産業人間工学論文指導	自分の研究テーマについての研究計画の素案ができたから、実験計画の策定、実験システムの構築、得られたデータの統計解析の方針等について討論し、問題点を明らかにする。このような過程を繰り返して、研究テーマの設定から、実験実施および結果の解析とまとめまでの一連の過程を学び、実験を実施して、データを得る。論文執筆においては、実際に論文を書きながら、指導教員との議論、繰り返しの修正過程などの経験を通して、論文の構造・構成、記載法、さらに論文投稿・発表の倫理などを系統的かつ実践的に修得する。	
	安全衛生マネジメント学特論	有害要因のリスクアセスメント・リスクマネジメントの全般にわたり、講義やセミナーを中心として、基礎知識を得ると同時に実践応用するための経験を蓄積する。すなわち、産業衛生学の実践領域であるリスクアセスメント・リスクマネジメントの基本を学び、現実の産業現場における有害要因を見つけ出し、労働者に対する影響を評価し、防止対策を策定するための理論や手法を研究する能力の習得を目指すのが目的である。	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科産業衛生学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 領 域 科 目	安全衛生マネジメント学演習	抄読会、カンファレンス、セミナー、研究会などの多彩な機会を通して、有害要因のリスクアセスメント・リスクマネジメントの全般にわたる幅広い基礎知識を実践的に習得するとともに、大学院生自ら発表・議論を行うことにより、プレゼンテーションおよびディスカッション能力の基礎を身につける。例えば、有害要因のリスクアセスメント・リスクマネジメントに関連する最新の英文原著論文を読んで、抄読会で紹介するとともに問題点を議論する。これらを通じて、職場の有害要因と労働者への健康影響を的確に判断して、有効な対策を考案できる能力の獲得を目指す。	
	安全衛生マネジメント学実習	自分の研究テーマの概要が決まったのち、指導教員の下で具体的な研究の方向性や手技・手法、研究倫理などに関する議論を行い、研究の組み立てを学ぶ。指導を受けながら実際に産業現場におけるフィールド調査研究を開始し、得られた結果に対してその都度議論する。研究結果の討論などを通して、科学的なものの考え方、リサーチマインドを理解し、具体的なリスクアセスメント・リスクマネジメントの実践学習と問題解決能力の獲得を目指す。学会発表等においては、発表のまとめ方を含め、より高度のプレゼンテーション能力を身につける。	
	安全衛生マネジメント学論文指導	自分の研究テーマについて結果が得られたら、指導教員のもと統計学的手法も用いて現場調査結果について討論し、問題点を明らかにする。このような過程を繰り返して研究のまとめ方を学ぶ。論文執筆においては、実際に論文を書きながら、指導教員との議論、繰り返しの修正過程などの経験を通して、論文の構造・構成、記載法、さらに論文投稿・発表の倫理などを系統的かつ実践的に修得する。	
	産業保健疫学特論	(概要) 産業保健疫学全般について、講義やカンファレンスにより学ばせることで基礎知識を得ると同時に産業保健現場での実践への活用を目指した能力の開発を目的とする。産業保健疫学の3つの柱として、1) まず基本的な考え方、方法論を理解する。特に、社会疫学、公衆衛生学、生物統計学の基本をマスターする。2) 産業保健疫学で用いる用語や概念に熟知し、最新のトピックスについて新しい知識を身に付ける。3) 産業保健疫学を臨床、研究、職場健康政策に応用できる検討できるようにする。特に職場の健康問題を解決する産業保健疫学の調査方法や介入研究に力点を置く。 (オムニバス方式/全30回) (△ 中 田 光 紀/26回) 産業保健疫学の国内・国際動向について教授し、学習成果発表を通して産業保健疫学を探究する。	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科産業衛生学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 領域 科目	産業保健疫学特論	②⑥ 高 波 利 恵/2回) 疫学的方法論に基づく保健指導や健康教育について教授し、学習成果発表を通して産業保健疫学を探究する。 ① 中 田 光 紀・②⑥ 高 波 利 恵/2回) 課題発表：産業保健疫学に関係する内容の学習成果を発表する	
	産業保健疫学演習	(概要) 産業保健疫学領域の歴史と成り立ちについて整理するとともに、最新の疫学的手法・生物統計学的手法の知識を習得し、これからの未知の課題や予測しえる課題について考える。過去の失敗例や成功例を事例検討しながら、現在においてはどのような解決策があるかを再考する。その上で、現段階における産業精神保健の実態及びこれに対するニーズを把握し、効果的な第一次、第二次、第三次予防対策を立案・実施できる能力を身に付ける。講義のみではなく、ディベート等を通して実践的な知識の習得を目指す。 (オムニバス方式/全30回) ① 中 田 光 紀/22回) 最新の職域における疫学研究の情報を整理する。 世界における産業保健疫学研究を概観し、将来展望を考察する。 今日における産業保健の課題と問題点について議論し、解決方法について考察する。 ② 中 谷 淳 子/4回) 今日における産業保健の課題と問題点について議論し、解決方法について考察する。 ②⑥ 高 波 利 恵/4回) 今日における産業保健の課題と問題点について議論し、解決方法について考察する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科産業衛生学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 領域 科目	産業保健疫学実習	(概要) 実習を通して、産業保健疫学研究をどのように実践するか、現場の状況を的確に把握しながら優先課題や実行可能性等について計画をシュミレーションする。計画に基づき、現場の産業保健師や産業医と協議を重ね実現可能な計画を立案・実行する。職域で得られた健診結果や疫学研究の成果を成員にフィードバックすることにより、予防保健につなげる実践活動について学ぶ。健診データについては産業保健活動に役立てられるよう、あらゆる角度から分析を試み、妥当性・信頼性・再現性があるものについては指導教官のもとで論文や学会で発表可能な段階までレベルを高める。 (オムニバス方式/全60回) ① 中 田 光 紀/20回) 研究計画に実現性があるか、コストベネフィット等も考慮したうえで実行し、解釈の仕方、まとめ方を指導する。 ① 中 田 光 紀・②⑥ 高 波 利 恵/20回) 個人及び集団の調査結果を解析し、産業保健現場の改善を効率よく指導できる能力を習得する。 ① 中 田 光 紀・②⑥ 高 波 利 恵/20回) 研究成果を平易に解説できるようプレゼンテーション能力を高める。	オムニバス方式・共同（一部）
	産業保健疫学論文指導	(概要) 文献の収集・熟読、研究計画の立案、データ収集、統計解析、論文の作成・推敲・投稿、受理という一つの研究を完成させるまでの一連の過程を総合的にマスターする。これらの流れについては個別指導を中心に行い、可能な限り英文で論文を作成する。他の教官や院生からコメント、アドバイスや批評を取り入れながら、学内で研究内容を発表するとともに、国内外の学会でも研究成果を発表する。将来的には独立して研究者になれるようリサーチマインドを育成する。 ① 中 田 光 紀) 英文・和文の原著論文作成をめざし、実践的な指導を行う。大学院生の論文を査読や批判に耐えうるよう十分な素養を養う。 ② 中 谷 淳 子) 英文・和文の原著論文作成をめざし、実践的な指導を行う。大学院生の論文を査読や批判に耐えうるよう十分な素養を養う。 ②⑥ 高 波 利 恵) 英文・和文の原著論文作成をめざし、実践的な指導を行う。大学院生の論文を査読や批判に耐えうるよう十分な素養を養う。	